



トカゲハゼ（スズキ目ハゼ科） *Scartelaos histophorus*

大きさ：全長 10cm（1 年）、13cm（2 年）、15cm（3 年）。

特徴：背びれは細長く伸びる。体は灰色で細く黒線がある。トビハゼに比べて細く長い。

見られる時期：年中みられるが、特に産卵期の 4～7 月頃は、行動が活発で観察しやすい。

分布：日本国内では沖縄島の中城湾および大浦湾のみ。国外では、中国南部～オーストラリア北部。

生息場所：トカゲハゼの生息地は、内湾の泥質干潟である。本種は干出時に乾燥せずに海水が残る溜まりなどに巣穴を掘り、その周りで活動する。中城湾では、浮遊仔魚は湾中央部から南部にかけての水深 20～30m の海域に生息する。

生態：内湾の泥質干潟に巣穴を掘って生活し、日中の干潮時に干潟上の干出域を這いまわり餌をとる。冠水時には巣穴に潜る。産卵時期は、巣穴の天井に卵が産みつけられる。産卵は、雌雄 1 つがいで行われ、雄によるジャンプなどの一連の求愛行動が観察される。主に雄が卵を孵化するまで守るが、この期間には、空気を口に含んでから巣穴に戻るエアレーション行動が観察される。トカゲハゼは、干潟表面の珪藻を食べる。同じ場所に生息するヤマトオサガニも、同じく珪藻を食べるので、トカゲハゼが激しく攻撃して追い払う行動もみられることもある。同じハゼの仲間でも、トビハゼは肉食性なので、トカゲハゼとは競合しない。

希少性：沖縄島における生息は、世界的にも分布の北限であり、生物地理や沖縄の地史を考える上で重要。

環境省レッドデータブック（絶滅危惧ⅠA類）、沖縄県レッドデータブック（絶滅危惧ⅠA類）